



戸嶋悦男さん(60)

秋田県アーチェリー協会理事長。アーチェリーの経験はないものの、旧阿仁町が国体アーチェリー会場に決定後設立された、阿仁アーチェリー協会の会長として同競技の普及などに尽くされ、平成16年6月から同職に就かれています。また今年4月からは、市体育協会理事、陸上競技協会の副会長も歴任されています。現在、特別養護老人ホーム山水荘施設長。

市長 ほかの会場で問題はありますか。  
成田 フェンシングは特に問題はありません。合川体育館は床面積を広げましたし、観覧席も6000席あり、一つの会場で開催できそうですので大丈夫です。  
細田 バレーの鷹巣体育館も、2000人の観客に対応できるので



▲阿仁吉田特設競技場で行われるアーチェリー

いますが、オーロラビジョン(大きなテレビ画面の装置)を導入し、的を大きく映し出して観客を喜ばせている大会もありました。

強化指定チーム「鷹巣クラブ」(成年男子9人制)

細田 鷹巣体育館での成年女子9人制には、にかほ市のTDKが出

市長 国体には、本市をはじめ有望な選手も多数出場するようですね。期待される選手・チームや競技の特徴についてご紹介いただけますか。  
赤石 縦走競技は、先に述べたような課題がありますが、クライミング会場は森吉支所の裏手にあるスポーツ公園内。会場としては十分な広さもあります。競技は、軽快な音楽を背景にDJによる紹介で選手が登場する独特の雰囲気の中で行われます。  
高さ15mの逆勾配のボードを素手で登る迫力には圧倒されます。ただ、屋外のため、見る人たちのことを考えて雨天にも配慮しなければと思っています。



細田敏明さん(70)

市バレーボール協会顧問。昭和45年から62年まで旧鷹巣町バレーボール協会会長を務められ、大館・北秋田バレーボール連盟の設立などにも尽力されました。バレーボールを始めたのは昭和の合併前の鷹巣中学校時代。昭和28年、大館鳳鳴高校2年時には、徳島国体で優勝、大学(日大)でも関東六大学新人戦で準優勝するなど活躍されました。

赤石 また、兵庫国体のコースは山頂部まで車道がありました。森吉山のコースには車道がありません。そのためゴール会場との行き来が不便なため機器の運搬や選手の輸送も課題です。選手にはゴール後、重りの入った荷物

5月には完成する「クライミングボード」(山岳クライミング競技)

縦走競技は、「山岳」のことばのイメージとは異なり、登山靴を履いての競技ではありません。「重りを背負って山を走るマラソン」と思っていた方が早いかもしれません。そのため、コースとなる登山道はすべて、石などのでこぼこを整地し、自然にやさしいヤシの繊維でできた特殊なマットを敷いて整備します。

を背負ったまま歩いて降りてもらうことになりませんが、寒さ対策なども必要です。

一方、クライミング競技は、森吉支所裏の運動公園に「クライミングボード」という高さ15mと見上げるような人工の登はん壁を設置して行ないます。完成するのは今年5月頃。それができれば市民の皆さんにもよりの競技に関心を持っていたくことができるでしょう。

市長 縦走競技については、車が入れないとなると救護体制もたいへんですね。  
赤石 救護車として4輪駆動車を入れ対応することになります。また、縦走競技は、ゴール付近に観客は入れず、スタート地点しか見られないことから、ゴール付近も映像で流したいと考えているのですが、会場は通信環境の悪い山の中。技術的なことも含め、どうするかを検討中です。



成田政志さん(60)

全県でも有数の施設 アーチエリー阿仁吉田特設競技場

戸嶋 アーチエリーは、平成17年に完成した阿仁吉田の特設競技場で行われます。会場の広さは約2万㎡。駐車場の収容台数は6000台、観覧席も6000人収容と、国体会場として十分な規模です。  
今年6月には、リハサル大会として「第39回全日本社会人ターゲット選手権大会」を実施しました。全国から約100名の選手が参加し行われましたが、阿仁地区をはじめ市民の皆さんの協力にも支えられ、概ねスムーズな運営ができたと思っています。

アーチェリーは、緊張感と集中力が必要なスポーツ。国体では、ターゲット(標的)という種目が行なわれます。この種目は、70m先にある直径122cmの的に向かって矢を射るもので、試合中は選手の



赤石光悦さん(58)

森吉山岳会副会長。山と自然を愛し、地元森吉山を中心とした登山歴も長い。山岳会の会員歴も35年ほど。昭和50年9月には、第1回東北総体山岳競技が、また平成17年には32回目の同大会が森吉山で開かれ、運営に尽力されました。現在は、国体本番に向けて大会役員の取りまとめなどに奔走する毎日です。北秋田市森吉支所企画総務課長。

場します。秋田県代表チームに市民の皆さんからもぜひ熱い応援を願います。  
また、成年男子9人制には、県の強化指定チームにもなっている鷹巣クラブが出場します。同クラブは、昭和36年の秋田国体がきっかけで結成されました。今のチームは、主体となっている地元出身選手に県外出身選手が加わり、ムードも和気あいあい、優勝めざして一丸となって練習に励んでいます。

赤石 お話しましたように、山岳競技のうち縦走は全国的に陸上競技の長距離選手が主体です。本市でも鷹巣高校が強化指定校となっています。兵庫国体では、白渡真由子選手(3年)が9位、熊谷彩選手(2年)が10位、総合で5位に入賞しました。



昨年開催されたミニ国体で

▶本市から出場する鷹巣クラブ(成年男子9人制:会場:大館市)

バレーボールが盛んな土地柄でもあり、チームの活躍がバレーの振興にもつながります。この種目

精神状態を乱さない環境が必要ですが、リハサル大会を通じて反省点もわかりました。国体本番までにはこれらの点を解消し選手の皆さんに満足していただける会場にしたいと思っています。  
競技場は、矢を遠くに飛ばすことから十分な広さと危険を防止できる環境が必要です。そのため、県内では競技場が限られ、これまでは雄和のスポーツゾーンにありましたが、最近では施設面から県内の大会も吉田会場で開催されるようになってきました。  
県選手の成績ですが、昨年はミニ国体(東北大会)で国体初優勝を果たすなど、レベルも上がっています。

観戦については、アーチェリー競技は矢を射る選手の後ろからしか観戦できないため、矢が的にあたったかどうかはわからないのも人気に影響しているようです。  
数年前から各地の大会を視察して

の会場は大館市の田代ですが、北秋田市からもぜひたくさんの方々に応援にきていただきたいと思っています。  
赤石 お話しましたように、山岳競技のうち縦走は全国的に陸上競技の長距離選手が主体です。本市でも鷹巣高校が強化指定校となっています。兵庫国体では、白渡真由子選手(3年)が9位、熊谷彩選手(2年)が10位、総合で5位に入賞しました。  
また、成年男子でも本市から入賞選手が出ています。秋田県は男女総合でも3位と、縦走は得意なのですが、クライミングは苦手。これは、練習できる施設が少ないため競技人口が少ないことが要因ですが、秋田市・八橋の県スポーツ会館と、本市の沢口公民館に設置されている施設などで練習を重ね、上位を狙ってほしいと思っています。  
各県とも3人が1チームとなり縦走とクライミングに2人、うち